

■ 授業者より

1 研究テーマについて

社会認識と自分なりの解釈とは、問題解決的な学習の中で社会や人々の営みを適切に理解するとともに、**社会的事象の特色や意味について自分なりの根拠で捉える**ことである。

2 研究視点と単元の関わりについて

①「切実感」を視点とした問いづくり

・具体的な数値を提示することで、学習内容が決して自分から遠い場所にあるものではないことを実感させた。

②言葉のフィルターを使った思考場面について

・「すると」「つまり」は、自分なりの解釈を得るとともに概念的な知識につながり、社会的事象の意味や役割に迫ることができた。

③振り返りの視点の選択

・自ら振り返りの視点を選択し、感じたことや自身の学び方について記述することで、学びを深め自己の成長を自覚することができた。

3 今後の課題

- ・資料を収集する方法や調べたことを共有する活動方法について吟味する必要がある。
- ・振り返りの見取り方を吟味する必要がある。

■ 研究協議（主なものを抜粋）

A：風速50m、積雪70cmのため、外出を控えてください。

B：数年に一度のもうふぶぎのため、外出を控えてください。

・AかBが視点を明らかにして話し合いをしていた。これまでもそのようにしていたのか。また、どのようなメリットがあったのか。

→本当はAとBの選択肢を子供から出させる予定だったが、余裕がなくこちらから提示した。メリットとしては、**議論が焦点化できる**こと。また、新たにCやDといった考え方も登場するなど**学びを広げる**こともできる。

・今回の授業では、Bの伝え方に最後焦点化していたように感じたが、Aに対する批判的な考え方をもち児童はいなかったのか。実際のニュースではAのような伝え方もあるし、いつも「数年に一度」という伝え方をするわけではないのかなと思う。

→道東で起こった災害を踏まえアナウンスの仕方を見直した結果、「数年に一度」というどの世代の人にも届く言葉が誕生した経緯があり、**その言葉が子供たちが理解することが今後の自然災害と向き合っていくことにつながっていく**と考えた。

ただ、実際にAもあり、Bだけに偏らない授業は心掛けた。

・入りが具体だったので議論が活発化されてよかった。子供自身もAかBかではなく、その向こう側にある気象台の人の思いを考えるなど高い所まで上げることができたのでよかった。市町村の公立学校でも使える**汎用性のある方法である**と感じた。

■ 指導助言

旭川市教育委員会教育指導課主査

近田 博信 様

1 現在求められている社会科授業について

- ・目指す資質・能力の育成に向けた教育活動の実現のために、学習問題を把握し**解決の見通しをもつ**。
- ・社会的事象の見方・考え方を働かせて問題解決をし、**振り返りを重視**する。
- ・課題解決を取り入れた**学習プロセスを大切にするとともに、協働の場面を設定**する。

2 授業から得られたこと

①単元構成に関わって

- ・雪害について、**精力的に取材活動**を行い、教材化した取組が素晴らしい。
- ・雪害から暮らしを守るために情報発信をするということをも**自分事として捉え真剣に話し合う展開**であった。
- ・気象台の方の**思いを理解した上でまとめた**。

②1人1台端末の活用について

- ・ICTを文房具として、情報収集や共有の機能、繰り返しの再生機能、まとめる機能等を活用したい。
- ・本授業では、全体への工夫された資料提示や社会的事象をまとめる場面などで活用していた。

3 今後の小中連携のための重要な視点について

- ・指導要領解説を基に**単元のつながり**を考える。
- ・育成を目指す**資質・能力を手掛かり**として考える。
- ・主体的対話的で深い学びの**授業改善を視点**とする。
- ・**ICTを手掛かり**とする。

■ 指導助言

北海道教育大学旭川校教授

坂井 誠亮 様

＜本授業実践から学ぶ4つのポイント＞

1 本時の学習の見通しを子供がもつ

- ・AとBの資料を提示した後に、児童にこの後どうすればよいかを聞き、見通しをもたせている。

2 子供の発言を教師が補足説明せずに子供に返す

- ・ある児童の発言内容を周りの児童にもう一度問うことで、広がりや深まりが得られている。
- ・先生の質問に対して子供が返す、子供の意見に対して先生が返すような双方向だけではなく、子供たちの間をつなげることが大切である。

3 子供が授業者を飛び越えていく

- ・AかBかという二項対立的な意見が続く中にCという意見が出てくることに価値がある。
- ・言葉の捉えは人それぞれである。だから今回は、私たちには何ができるか、気象台の発表をどう聞かかという姿勢こそが大事である。

4 振り返りを通して子供の主体的な学びを見取っていく

- ・主体的に学習に取り組む態度の評価は主に観察が中心になるが、全ての子供の評価は難しい。フレームワークを使った振り返りはとても有効である。
- ・学習内容と自分の暮らしを重ねた振り返りも必要である。子供たちは自分事として捉えている。